

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	NPO法人こらぼねっと京都 こらぼねっと京都自立支援センター（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年12月11日		2026年1月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	59	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	2025年12月11日		2025年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化、充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者同室での療育を実施しているので、小集団の中で子どもの様子を間近で見ながら理解してもらいやすい。その場面を捉え保護者の疑問や悩み、対応についての話ができる機会がある。	療育の中で、子どもの言動を見てもらいながら、その都度対応についてのアドバイスを行うようにしている。	保護者と話した内容を担当指導員同士で共有していく。担当者会議で、本人の将来を見据え、次の成長につなげるための対応を考えていく。
2	小集団療育以外に、期間限定、回数限定ではあるが、個別の言語訓練を実施している。	療育担当者と訓練担当者で子どもの情報を共有し、訓練終了後は訓練担当者からの報告会を実施している。個別訓練で成長したところや成長途中の部分を療育でも引き続きサポートし、より一層成長できるよう取り組んでいる。	訓練として、個別の言語訓練を実施してきたが、今後は個別の作業療法も実施したいと考えている。
3	確立されたプログラムがある音楽活動を取り入れている。見通しを持って活動できたり、集団参加や気持ちや行動のコントロールができるよう、また身体機能を促進し、言語発達など、様々な成長発達を目指している。	その子なりの参加の仕方を大切にしている。小集団の活動を通して、その子に合わせて個別対応を行っている。自己選択、自己決定を促し、困った時にどうすればいいかを見本を見せながら具体的に伝えている。	指導員がプログラムの研修を受け、自己研鑽をする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	多くの保護者からの要望がないので、保護者全体が集う場所や機会、保護者会は実施していない。	保護者同室での療育内に保護者同士が話し合える場や時間を設けている。	保護者の要望があれば、保護者が悩みを相談し合える機会などを作れるよう検討する。
2	家族に対してペアレント・トレーニング（家族支援プログラム）や家族も参加できる研修会や情報共有の機会がほほない。	誰でも参加できる音楽活動の定例会を月1回行っているが、周知されていない。家族支援は個別に行っているが、集団でのペアレント・トレーニングは実施していない。	誰でもが参加できる音楽活動の定例会について、周知していく。家族支援に関しては、今後も個別に対応していく。
3	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこすどもと活動する機会はない。	週1回の療育の中では、地域との交流の機会を持つことは難しい。	今後も予定はしていない。